

◆2008年 8月

有吉堅二

昼寝猫髭の長さをもてあまし
土用鰻出自問はれてしまひけり
あのことを今更悔いる祭の夜

青山桂一

手直しは機械に代はる早乙女で
観念すもみじマークや梅雨に入る
夏野菜補強が過ぎて窮屈げ

三木蒼生

雨男欲しき連夜の猛暑かな
虫愛づる姫君兜虫飼育
俳諧も牛もクローン街酷暑

飛田正勝

父の日の怒らなくても怖い父
妻も子もボーイソプラノキャンプの夜
飲める妻に飲めぬ夫の暑気払い

虫倉蟬音

音もなく昼寝してをり峡の村
生国を糺して食す鰻かな
こんがりや山家焼き揚げ大西日

飯塚ひろし

箱眼鏡乙姫さまの寝起き顔
鮎鮎や琵琶湖は大き溜り水
日盛りや応拳の虎に水吞ます

永島唯男

鰻重の隅はつつかず爪楊枝
草取をせねばせねばとのぼしをり
また地球つつて釣師は玉の汗

吉野香風子

吊忍値切れれば苔を負けくれし
お花畑燥きて歩板無くもがな
泳ぎつぷりただ者ならず避暑夫人